

第3回・第4回ボランティア活動推進協議会“専門部会”検討結果報告

協議会専門部会では、令和5年1月31日に開催された第4回ボランティア活動推進協議会からの下命に対する報告に向け、これまで2回にわたり専門部会を開催し検討を行ってきた。今回はその中で設定した議論の視点や協議の状況等の概要について、下記のとおり報告する。

記

1 開催状況

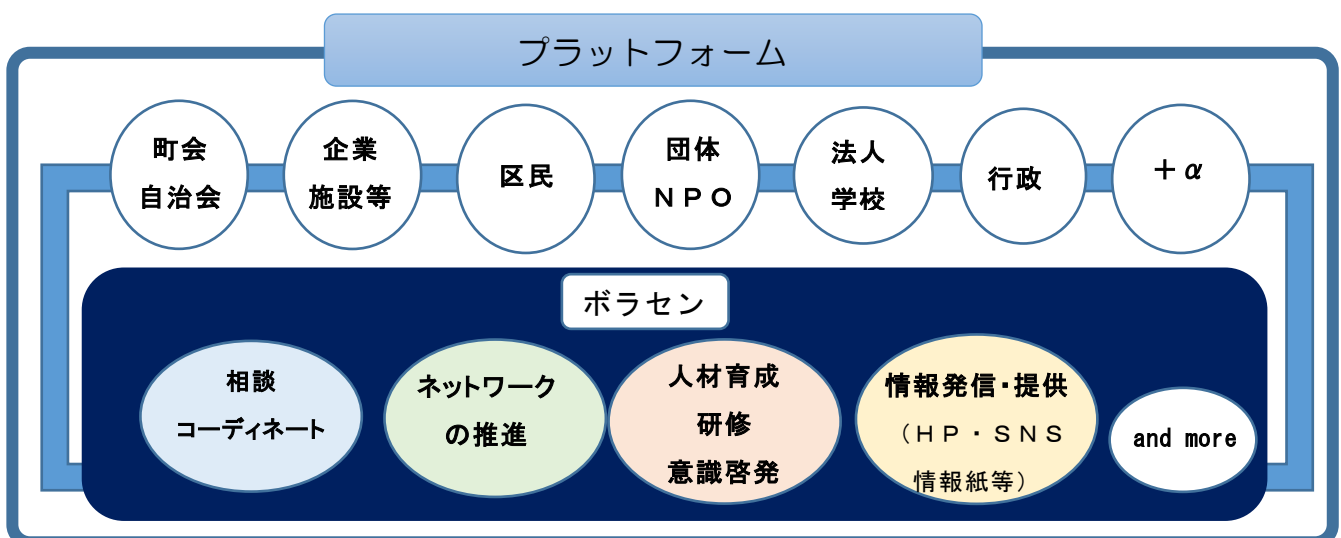
回	開催月日	内容(次第)
第3回	令和5年3月9日	1 第4回協議会の振り返り 2 今回の検討事項について 3 運営方針(案)の確認について 4 運営方法の検討について (1) プラットフォームの導入について (2) その他方法について
第4回	令和5年4月19日	1 第3回専門部会の振り返り 2 今回の検討事項について 3 運営方法の検討について (1)プラットフォームの導入について (2)その他方法について

2 協議状況

▼主に第3回専門部会で議論した内容(意見等)

(1) プラットフォームの導入について

各主体間の情報共有や、地域での活動につながる連携・関係性構築、活動のすそ野を広げる等ができ、かつ、各主体同士が対等に作用しあえるプラットフォームを展開していく。



① 運営方法・事業の構成

	議論の視点	協議状況(意見等)
ア	新規運営方法の軸	<p>①システム導入による情報の一元管理</p> <p><input type="checkbox"/>ボラセンへの相談内容等を効率的に管理ができるように整備。</p> <p><input type="checkbox"/>災害時の登録情報を一括管理等活用。</p> <p>②オンライン上での情報共有機能</p> <p><input type="checkbox"/>オンライン上で活動情報をリアルタイムに発信できるよう環境整備。</p> <p><input type="checkbox"/>主体相互間の情報共有・マッチング等が行えるよう調整。</p> <p><input type="checkbox"/>SNS・アプリ機能等による一括情報発信の情報共有整備。</p> <p>(例:多世代が利用する LINE 有効活用)</p> <p>③プラットフォームのルール化</p> <p><input type="checkbox"/>主体間同士が円滑かつ安全に関係構築できるように「プラットフォーム」に関するルールを策定。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例)参加要件について 板橋区内でボランティア・市民活動を行う各主体 ただし以下の活動は対象外とする。 営利活動、政治活動、宗教活動、公序良俗に反する活動、自己研鑽及び団体会員向けのみの活動。その他、加入・脱退の取り決め、禁止事項や個人情報取り扱い等を明確に規定していく。</p> </div> <p>④プラットフォームの周知</p> <p><input type="checkbox"/>様々な方々の目に留まるように媒体を問わず周知。</p> <p>(a)概要説明:プラットフォームがどのようなものなのかを分かりやすく周知</p> <p>(b)現場での活動・広報:直接的な対話や手に取れる広報物を使用した周知</p> <p>(c)HP・SNS等の利用:デジタルボランティア等との連携により、動画等のツールを使用した情報配信</p>
イ	既存事業の整備	<p>①相談機能・コーディネートの強化</p> <p><input type="checkbox"/>大学ボラセンや施設ボランティアコーディネーター等の既存の団体・社会資源との連携。</p> <p><input type="checkbox"/>地域拠点で活動団体の連携がなされた後は、コーディネーターはボラセンの職員ではなく、地域住民が地域スタッフとして参加し、地域活動を支援。(ボラセンは中間支援組織として地域の活動を鑑みながら、必要なサポートを行っていく。)</p> <p>②地域活動を支える人材育成の強化・連携強化</p> <p><input type="checkbox"/>地域課題の解決に向け地域活動で中核を担える活動者の育成、プロジェクトチーム化等。</p> <p><input type="checkbox"/>地域人材(町会・民生委員・青少年健全育成地区委員会(以下「青健」という)・ジュニアリーダー等)との連携強化。</p> <p><input type="checkbox"/>中学・高校・大学のボランティア部との連携・協力。</p> <p>③各主体による自主事業化・事業効率化を検討</p> <p>(自主事業例:切手整理・結まつり等 効率化例:登録・派遣等)</p> <p><input type="checkbox"/>プラットフォーム充実とともに、徐々に各主体の自主事業としての運用等を推進。</p>

		□ボラセンによるマッチング(直接支援)から、主体間同士の連携・協力支援事業に徐々に移行。
ウ	新たな視点での事業展開	●インキュベーション機能(新たな社会資源や活動の創出につながる機能)の強化 □新たな課題・資源を取組みにつなげるマネジメント・コーディネート。

② 地域課題の解決に向けた運用

【プラットフォームの運用イメージ(実例)】

□青健でのイベント(前野地区マラソン大会)と、ボラセンの連携

- ・ボラセンが公務員予備校を紹介
- ・青健担当者から予備校に直接連絡
- ・地域イベントにボランティアとして参加したい、経験したいと思っている学生が、スタッフとして従事結果、当日のイベント運営が円滑に行われた。

議論の視点	協議状況(意見等)
運用により期待される効果	<p>①システム導入により情報を一元管理することで、今までの連携や課題等が可視化でき、担当職員以外でも、スムーズなコーディネートに繋がる。(過去の関係団体や連携等の情報をもとに声かけ等も可能になる)</p> <p>②オンライン上での情報共有により迅速な情報提供が可能になり、必要な社会資源や活動の連携が簡易化する。</p> <p>③プラットフォームのルールが根付くことで、わかりやすく、安心して主体間の連携が行えるようになる。</p> <p>④大学ボラセンや、施設コーディネーター等との連携により、各施設を相互に一部サテライト化でき、協力先が増えることでボラセン及び各施設の負担感の軽減と、新たな協働の可能性を広げていく。</p> <p>⑤地域人材との連携を深めることで、地域の実情を共有しつつ、地域人材の負担軽減の可能性を広げていく。</p> <p>⑥新たな社会資源と活動により広がった分野や主体が活発に活動できるよう、区主管課等を含めた連携により、活動の幅を広げ、新たな連携を生み出していく。</p> <p>⑦就業機能(企業等)を通じた連携により、ボランティアへの寄付や活動創造の可能性を広げていく。</p>

※プラットフォームで各主体が協働することで、対等に繋がり相互に作用し、成長・自立に繋げていく。

▼主に第4回専門部会で議論した内容(意見等)

(2) その他方法について(取組み)

プラットフォーム以外の新たな運営方法案は以下のとおりである。

	議論の視点	協議状況(意見等)
ア	活動拠点のあり方 《A》 ボラセンの本部について	<input type="checkbox"/> 現在は旧板三小を拠点とし、ボラセンの運営を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用団体増加等、活動をより活性化するために、少なくとも現状と同等の執務室及び会議室が必要。 <input type="checkbox"/> 企業等多様な主体間とのつながりが生まれる拠点としての側面も必要。
	《B》 ランチについて	①ランチの考え方 <input type="checkbox"/> 「情報収集が容易にでき、人と人とが会う場」として地域活動を支えていく。 (a)システムやオンライン利用による仕組み (b)リアルに人と人とが出会い、繋がれる場 ②ランチの仕様 <input type="checkbox"/> 区内をブロックに分け、ブロックごとに関係性を築ける仕組み(出張ボラセン・事業展開)の運用。 <input type="checkbox"/> 各地域における地域資源(コミュニティカフェ・スペース等)を活用しての活動促進。 <input type="checkbox"/> 様々な事業展開。(団体間の情報交換の場・地域活動のプロジェクト化・ボラセン職員への相談等) <input type="checkbox"/> 地域住民・地域活動者によるランチ運営スタッフ(主催側)としての活動促進。
イ	ボラセンの周知のあり方 《A》 周知の考え方	<input type="checkbox"/> 必要な時に利用してもらえるように、現在の周知の強化・見直しと新たな方法を検討する。 <input type="checkbox"/> 社会背景・流行等時勢にあった情報や災害関連の情報周知を行えるようにする。 <input type="checkbox"/> ターゲット層に合わせ、方法をリスト化する(周知媒体の整理等) <input type="checkbox"/> ランチ機能を活用した周知(地域のボラセンの窓口化、地域情報に特化した周知) <input type="checkbox"/> 誰もが分かりやすい表現での周知(カタカナ用語を漢字に変える等)
	《B》 デジタルによる周知	<input type="checkbox"/> 新たなシステム導入によるホームページでの周知(情報周知及びマッチング)及び区ホームページの有効活用 <input type="checkbox"/> SNS等の活用 <input type="checkbox"/> 二次元コードの有効活用
	《C》 紙による周知	<input type="checkbox"/> 町会回覧板・区設掲示板の利用 <input type="checkbox"/> 各18地域センターのボランティア・市民活動情報コーナーの拡充 <input type="checkbox"/> ボランティア情報紙の有効活用
	《D》 連携先による周知	<input type="checkbox"/> 企業・シニア支援・就労支援等による周知・ボランティア参加への声かけ <input type="checkbox"/> ボラセンに気軽に立ち寄れるような仕掛け・周知